

第4章 まとめと今後の展望

4.1 まとめ

4.2 今後の展望

4.1 まとめ

本研究では、墨字と併記可能で製版の工程を含まない触知図・点字の製法を提案し、印刷後の仕上がりの改善と触知図・点字の触読性の向上を目指した研究を実施した。具体的には、無色透明な紫外線硬化樹脂インクを用いた触知図・点字に関する新規製作システムを開発し、印刷された触知図・点字の触読性の向上を確認した。なお、新規製作システムには、無色透明な紫外線硬化樹脂インクを噴射するノズルを搭載したリニアガイドテーブルを、ステッピングモータで駆動する方法を採用した。そして、製作した新規製作システムを用いて本研究所や特別支援学校のアクセシブルデザインパンフレットの作製を行った。また、点字を触読できない利用者や日本語の読めない外国人に対する対応も必要であるため、墨字の印刷物に触れることで図や文字の内容を音声で確認できる触知図の製法も合わせて検討した。本研究により、僅かであるがこれまでの印刷物のアクセシビリティの向上に寄与することができたと言える。

4.2 今後の展望

本研究では、墨字と併記可能で製版の工程を含まない特殊インク（紫外線硬化樹脂インク）を用いた塗布方式での触知図・点字の製法を提案した。この方式により、塗布後の点字や触知図の触読性の向上を実現することができた。技術の進展を考慮すると、将来的には通常のインクジェットプリンタでこのような塗布技術が普遍的に使用できる時代が来るであろう。それを見越して、本研究を更に進展させていく必要があり、そのため想定される用途を現時点において整理しておく。具体的には、視覚障害児・者の点字学習教材、知的障害児・者のコミュニケーションカードへの適用が可能性として考えられる。音声読み上げインタフェースに関しては、ペン型からポインティング型への改良が必要になってくるであろう。いずれにしても、本研究の成果が印刷物のアクセシビリティの更なる向上の一助となることを期待したい。